

B-118 身体の形態に関する一考察 —ファウンデーション着用による形態変化—
京大家政 〇福井弥生 藤田仁美 滋賀女短大 奥村莖

目的 衣服を美しく着装するには、衣服そのものの美しさと同時に、その着衣基体である人体のプロポーションが均齊がとれ、美的であることが望ましい。身体の状態およびプロポーションを、より美しくみせ、保持するためには、ファウンデーションを着用することにより体形を補整・整容することも一方法であると考え、そこでファウンデーションを着用することにより身体がいかなる影響を受けるかを検討する目的で、実験を試みたものである。

方法 被験者は、19~22才までの女子大生の中から無差別に選んだ30名である。試着実験用ファウンデーションは、市販のブラジャー、ガードルを用いた。測定時期は1978年7月から9月。測定方法は、マルチン式人体測定法、シルエッター法を用い、さらにモアレ法は被験者3名とし、ボディスーツを加えて試着し、それぞれの変化を観察し検討した。なおファウンデーション選定は無着時（リア編みメリヤスのランニング型の上衣とショーツ着用）の身体計測値に基づき各自に適応したサイズのファウンデーションを試着させ、比較的適合と思われるものとした。

結果 考察項目、高径8、周径6、横径6、矢状径8、実長4、体重の計33項目について検討を行った結果は、ほぼ次のようである。ファウンデーション着用により、胴高・腹囲高・腰部横径・下部胸囲・胴囲・腰囲以外の全項目に有意差が認められ、変化がみられる。特に乳頭高・腰囲高・各矢状径の増加が顕著で、前後に厚みのある胴部のくびれた形態に与ることが判る。体型別にみると、肥満型がより影響を受けることも認められた。